

# 2023年度 防災人材交流シンポジウム「つなぎ舎」開催報告

## 1 開催目的

東北と中部の防災活動に取り組む NPO・ボランティア団体、学生等の防災人材が一堂に会し、東日本大震災の経験をこの地域につなぐとともに、防災人材同士が世代や地域、組織を超えて交流を深め、地域活動の活性化につなげていくことを目的としています。

## 2 開催概要

### (1) 日時・場所

日時：2023年12月9日（土）10：30から17：00  
場所：中区役所ホール（名古屋市中区栄4-1-8 地下2階）

### (2) プログラム概要

テーマ：「東北と中部が地域をつなぐ、世代をつなぐ、未来をつなぐ」

| 時間          | 区分  | 概要             |
|-------------|-----|----------------|
| 10:30~12:30 | 第1部 | ドラマ上映会         |
| 13:40~13:50 | 開会  | 挨拶、開催趣旨        |
| 13:50~15:30 | 第2部 | 東日本大震災の伝承活動のいま |
| 15:40~16:55 | 第3部 | パネルディスカッション    |
| 16:55~17:00 | 閉会  | 挨拶             |



【当日の中区役所ホール】

### (3) 主催団体

主催：防災人材交流シンポジウム実行委員会

（構成団体）

名古屋大学、愛知県、名古屋市、認定特定非営利活動法人レスキューストックヤード、あいち防災リーダー会、特定非営利活動法人あいち防災リーダー育成支援ネット、なごや防災ボラネット、特定非営利活動法人耐震化アドバイザー協議会、あいち・なごや強靱化共創センター（事務局）

### (4) 共催団体

共催：公益社団法人3.11メモリアルネットワーク、一般社団法人日本損害保険協会中部支部、株式会社中日新聞社、一般社団法人国立大学協会

### (5) 当日参加者数

会場参加：258名（一般参加、スタッフ含む）

## 3 開催結果

当日の内容、会場の様子は以下のとおりです。

### (1) 配布物

防災啓発及び来場者誘因のため、来場者には各種パンフレットやノベルティを配付しました。また、会場内のスタンプラリー参加者には景品もプレゼントしました。



【パンフレット・ノベルティ】



【スタンプラリー】

### (2) 啓発展示

会場のホワイエでは、東日本大震災当時の記事をパネル展示したほか、主催・共催団体による防災啓発のための展示ブースを設置しました。

また、屋外スペースでは、災害時に使用するトイレトレーラーの展示も行い、来場者への防災啓発を行いました。



【展示エリア全体】



【東日本大震災当時の記事】



【トイレトレーラー】



【あいち防災リーダー会展示】



【げんさいえまき展示】



【中日サバイバルキャンプ紹介】

## (5) 各プログラム

10:30~12:30

### 【第1部】ドラマ上映

#### 「明日をあきらめない…がれきの中の新聞社 ～河北新報のいちばん長い日～」

東日本大震災から1年を機に制作された、被災地の実情を取材し、被災者に情報を発信し続けた地元新聞社の奮闘と苦悩を描いた特別ドラマを上映しました。

上映後、このドラマのモデルとなった(公社)3.11メモリアルネットワークの武田真一 代表理事と、あいち・なごや強靱化共創センター長の名古屋大学 福和伸夫 名誉教授によるトークショーにて、武田代表理事から当時の状況や、震災後の様々な取り組み等について解説いただき、震災経験者としての想いを来場者に伝えていただきました。



【上映会】



【トークショー】

13:40~13:50

### 主催者挨拶

主催者を代表して、愛知県防災安全局の木村吉誠 防災安全局長が挨拶を行いました。



### 開催趣旨

あいち・なごや強靱化共創センター長の名古屋大学 福和伸夫 名誉教授からは、「つなぎ舎」の趣旨やこれまでの経緯、午後からのプログラムや展示の内容について説明をいただきました。

そして、東北からの学びを受けて、この地域で少しでも災害の被害を減らすために何ができるか、皆で一緒に考えましょう、とのメッセージが送られました。



13:50~15:30

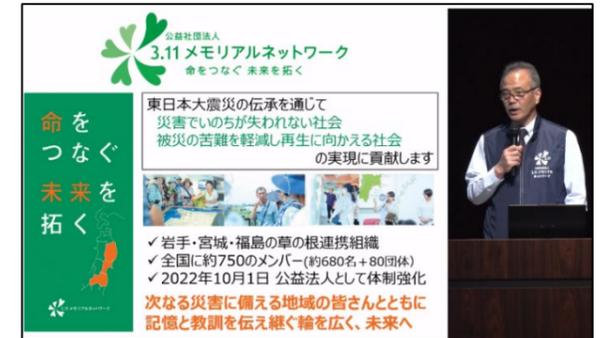
### 【第2部】東北の震災伝承活動のいま ～3.11の記憶と教訓を未来につなぐために～

#### ●『東北の震災伝承活動の現状』

3.11メモリアルネットワーク 武田真一 代表理事

(公社)3.11メモリアルネットワークは、東日本大震災の伝承を担う人材の育成や、伝承活動に対する助成支援等を行っています。武田代表理事は、被災体験から得られた“教訓”や、あの時の悔しさを二度と繰り返さないという被災者の切実な“想い”を、人から人へ手渡して伝え継ぐことが、震災伝承で一番大切なことであると述べられました。

そして、第2部では、東北3県それぞれの語り部の方による講演を通じて、手渡しの震災伝承の意義、そして地域や世代を超えた災害伝承の可能性を来場者の方に感じ取ってほしい、とメッセージをいただきました。



#### ●『福島県大熊町の現状 伝えるべき震災と教訓』

大熊未来塾代表 木村 紀夫 さん



福島県大熊町出身の木村さんは、震災によりご家族3人を犠牲にし、さらに原発事故によりご家族の捜索も阻まれます。次女 汐凧さんの遺骨を発見されるまでには5年9か月を要し、その8割は未だ見つかっていません。

定期的な捜索を続けながら、木村さんは、大熊未来塾という伝承団体を立ち上げ、当時の状態のまま残されている小学校など、中間貯蔵施設エリア内の様々な被災場所を案内する伝承活動をされています。講演では、大熊町の現状として、被災場所を巡る様子をご紹介いただきました。

また、若い世代に関わってもらうためにご自身で企画した、大熊未来塾に関わりのある若者を対象とする水俣・沖縄への視察事業についてもご説明があり、若者が現地の語り部との交流を通じて得た学びを、福島での伝承活動に生かしてもらいたい、と話されました。

最後に、伝承活動を通じ、災害で命を奪われない、同じ過ちを繰り返さない社会を皆様と一緒に作っていききたいというメッセージで締めくくられました。



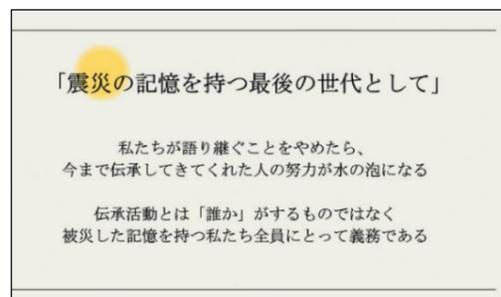
●『岩手県陸前高田での経験から 震災の記憶を持つ最後の世代として』  
松田 由希菜 さん

岩手県陸前高田市出身の松田さんは小学1年生の時に被災。避難所や仮設住宅での生活が続き苦勞されましたが、中学生の頃に、仲間とともに地域貢献グループを設立され、陸前高田の経験や魅力を伝える「ゆめたかウォークラリー」「東日本大震災津波伝承館オンラインツアー」等のイベントを開催してきました。



現在は、「失われた街」模型復元プロジェクトにより制作された被災地の模型を使い伝承活動を行う“模型ガイド”になることを目指し、様々な伝承の活動をされています。講演では、思い出の詰まった街を津波によって失った、そのつらさを伝えることの意義をお話いただきました。

そして、今までの伝承者の努力が無駄にならないよう、被災した記憶を持つ最後の世代として、使命感を持って震災を次世代に語り継いでいきたいと、今後の抱負を力強く述べられました。



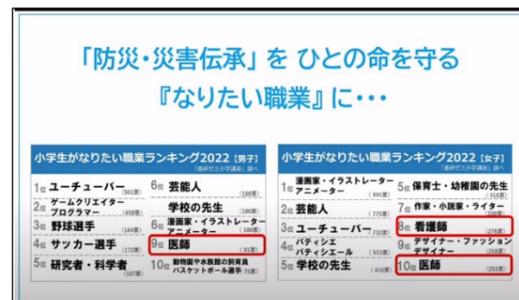
●『宮城県石巻市での伝承 あの日の失敗を次の世代のために』  
3.11メモリアルネットワーク 阿部 任 さん



宮城県石巻市の自宅で被災された阿部さんからは、ご自身を題材とした漫画をもとに、当時の被災経験をお話いただきました。発災後9日目に救出され、当時は“奇跡の救出”とヒーローのように報道されましたが、ご自身の中では、津波を甘く見て避難しなかったことへの後悔の気持ちが強かったとのことでした。

その経験を活かし、現在は語り部や伝承館での解説員として活動をされており、一緒に活動するベテランの解説員の方や学生との協働、そしてつなぎ舎への参加など、地域や世代を超えて連携する取り組みを続けています。

阿部さんは、災害伝承を次世代につないでいくために、伝承活動が人の命を守る憧れの職業として認知される社会になるよう、活動を今後も続けていきたいと決意を述べられました。



15:40~16:55

【第3部】パネルディスカッション ～東北と中部が地域をつなぐ、世代をつなぐ、未来につなぐ～

認定NPO法人レスキューストックヤードの栗田暢之 代表理事の進行のもと、「東北と中部が地域をつなぐ、世代をつなぐ、未来につなぐ」というテーマでパネルディスカッションを行いました。

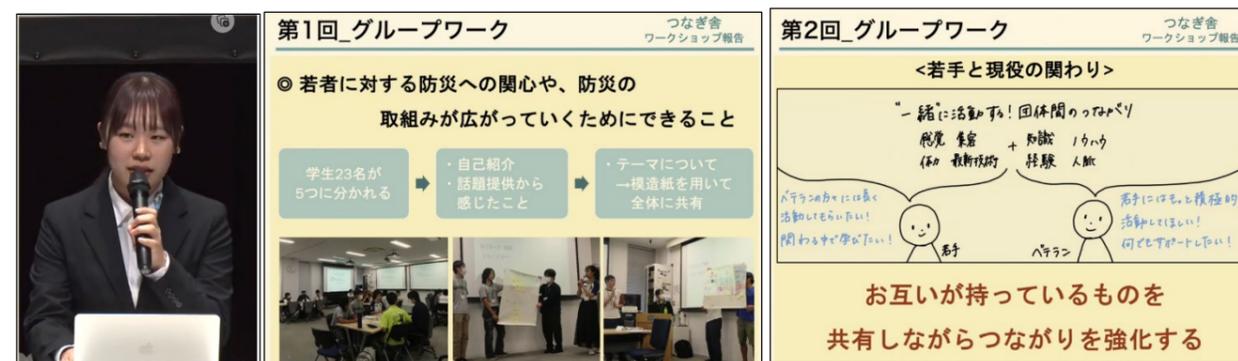


今年度のつなぎ舎では、新たな試みとして、事前に2回のワークショップを行いました。その内容を、名古屋大学 防災サークル 坂上野々香さんに報告していただきました。

1回目のワークショップでは、大学生等が中心となり、若い世代に対する防災への関心や防災の取り組みが広がっていくためにできることは何か、ということについて活発な議論がありました。防災への興味がなく他人事になっている、あるいは防災に固いイメージがあり活動に参加しにくいという現状から、防災減災に触れる機会を増やし、活動のハードルを下げるための取り組みが多く提案されたということです。

2回目のワークショップでは、これまで防災活動に取り組んできたベテランの防災人材が議論に加わり、若い世代が楽しく防災・減災活動に取り組むことができる地域社会について、若手とベテランそれぞれの今後のアクションを一緒に考える場となりました。

坂上さんは、若手とベテランが持っているそれぞれの長所を共有しながら、つながりを強化することが今後の防災活動において大切ではないかとコメントされました。



来場者の方からも多くのご発言がありました。ワークショップに参加した学生の方からは、つなぎ舎を機会として他大学とのつながりをもっと増やしたいという意見や、ワークショップで議論を実践しないと意味がないので、連携して取り組みたいという意見が出ました。

また、ベテラン組の一人でありワークショップにも参加された、あいち防災リーダー会 原 真理さんからは、意識の高い学生に関われる素晴らしい機会をもらった、いろいろな支援をしていきたいし、さらにつながっていったら良いとコメントいただきました。

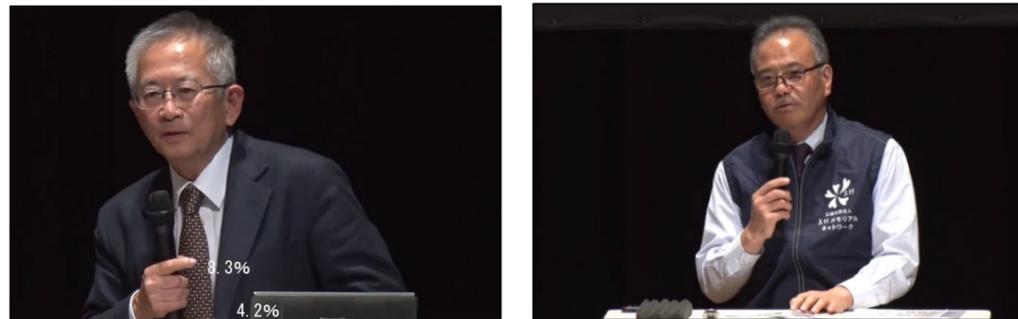


次に、坂上さんから、若者が活動をうまく継続できている事例として「備える！中日サバイバルキャンプ」での活動を紹介していただきました。中日サバイバルキャンプは、学生がスタッフとして運営に携わっており、参加者だけでなく学生自身も防災について楽しく学べる場、そして学生同士がつながる場にもなっています。参加がきっかけで防災活動に取り組み始めた学生もいて、そういう人が増えれば、防災に興味がある人も増えていくと思うので、今後も広めていきたいと話されました。



坂上さんの報告を受け、3.11 メモリアルネットワークの阿部さんからは、活動が継続できているのは皆が楽しいと感じているからだと思うので、社会人になってからもぜひ続けてほしいとコメントしていただきました。

パネルディスカッションでの議論を踏まえ、パネリストから様々なアドバイスをいただきました。福和先生からは、防災には“意識高い系”の人の存在が必須で、意識高い系×頑張り過ぎない仲間の上質なコラボができると防災の輪がさらに広がっていくこと、そして今回若者とベテランが世代を超えて交流する機会があったというのは画期的なので、これから何か一緒に生み出してほしいと話されました。また、武田先生からは、人の命を大切にして尊厳を守る社会をつくるという目標をベースにすれば防災はもっと広がるはず、その役割を今後のつなぎ舎に期待したいとメッセージをいただきました。



コーディネーターの栗田代表理事は、パネルディスカッションを楽しく、分かりやすく進行いただき、今回は世代間のつながりを特に意識したが、大学間、あるいは学生と企業や NPO など地域・組織間のつながりを深めることも次の目標として意識していきたいと最後を締めくくられました。



### 閉会挨拶

共催者を代表して、一般社団法人日本損害保険協会中部支部の三村雅彦 事務局長より閉会の挨拶をいただきました。



## 4 事業の効果

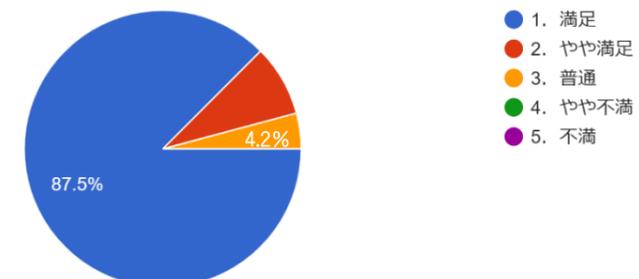
### (1) アンケート結果 (要約・抜粋)

参加者へのアンケート結果では、「満足」・「やや満足」の回答割合が、第1部・2部・3部の全ての区分で、95%を超える高評価でした。

「被災者の想いが心に響いた」と多くの参加者が回答していたほか、パネルディスカッションでは、来場者とともに意見交換を行うことができ、防災人材のつながりの大切さを再確認することができたとの感想が多くを占めました。

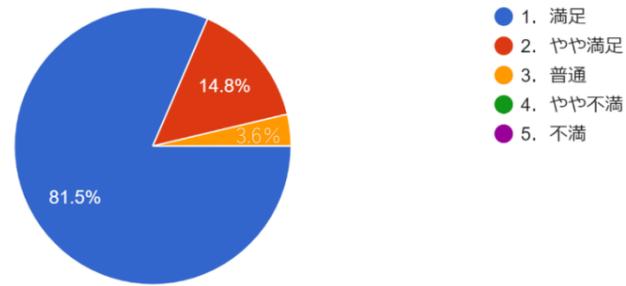
#### 【第1部】 ドラマ上映会について

■ 満足度



## 【第2部】 東北の震災伝承活動のいま

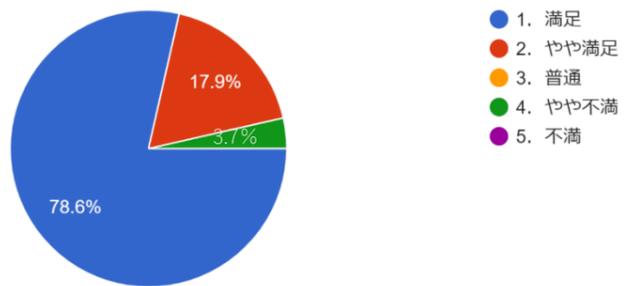
### ■ 満足度



8.3%

## 【第3部】 パネルディスカッション

### ■ 満足度



### (2) youtube 配信

第2部、第3部については、あいち・なごや強靱化共創センターのYouTubeチャンネルにて、動画を公開します。

<URL>

第2部：<https://youtu.be/KeWlh9UUBOI>

第3部：<https://youtu.be/5KxmJ94MOV8>

以上